



元気っ子

N o 338 ながさわ保育園

園 長 中 瀬 弦 偉

9月いっぱい保育参加が終了しました。お忙しい中ご都合をつけてご参加頂きました保護者の皆様ありがとうございました。そして、アンケート回答においてたくさんの励ましや温かい言葉を頂きました。全ての回答は全職員で共有させて頂いております。皆様からの回答を励みにこれからも保育を行って参ります。

ながさわ保育園の保育参加は保護者の皆様に「保育士体験を通して、子どもの姿を見て頂くもの」です。実際の環境や保育士の動きや言葉かけ、そして何より「集団」という子どもたちの姿をリアルに見て頂ける機会と位置付けています。ただ、どうしても参加当日のご自身のお子さんは、普段通り 100%リアルな園での様子にはなかなかかなりにくいのが現状であり、ここをどうにかしてお見せすることはできないかと考えていました。そこで、今回、企画させて頂いたものが、11月14日(金)に開催致します「こっそり見てみようこどもの姿」です。収容人数の関係から、場所を「椿会館大会議室」とさせて頂きました。現在、たくさんの動画を編集しながら、保護者がそばにいない時の子どもたちの集団生活のリアルな姿をご覧頂けるように作品を作成しております。ご参加予定の皆様、どうぞ楽しみにして頂ければと思います。

現在、小学校以降の学習指導要領の改定を目指して、令和の日本型学校教育の構築が文部科学省の中で行われています。保育会においても、また個人的にもこの動きにはたいへん注目しているのですが、今日はこの「日本型」ということの意味について少しお話してみたいと思います。

近年、日本の教育に OECD をはじめ、諸外国がとても注目をしています。それは何かと言いますと、「他人のために何かを惜しみなくできる」つまり「利他性」だそうです。ここが日本の教育の大きな特徴として、「日本型」とされているそうです。この「利他性」が育まれる場面のひとつに、掃除当番や給食当番、日直などの当番活動が挙げられます。私たち大人も当たり前のように学生時代に行ってきたこういった当番活動は、実は海外では非常に珍しいものです。実際、私自身も海外の学校で生活した経験がありますが、校内の清掃は清掃業者が担当していて、生徒がホウキや雑巾を持って掃除をする姿は見たことがありません。

もはや日本が海外に誇れる「文化」ともいえる当番活動ですが、当園でも日常的に行っている活動の一つでもあります。先日のお泊まり保育においても年長児がそれぞれ自分の担当の活動に積極的に取り組む姿がありました。また、日々の保育においては「お手伝い保育」に年長児が参加しています。これも「利他性」が育まれている活動の一つだと思いますが、もう一つ大切な側面があります。それは、お手伝いをしてもらう側である未満児の「お世話をしてもらったという体験の記憶」です。それも大人からではなく、子ども同士の関係性の中で「お世話をしてもらった、手伝ってもらえた」という体験をするから、今度は自分が年長児になったときにその嬉しかった体験をまた未満児の子どもたちに返していけるのだと思いますし、異年齢における子ども同士の中で助け合ったり手伝ってあげたりできるのだと思います。

是非、家庭という集団生活においても子どもにお手伝いをお願いしたり、場合によっては「当番活動」を取り入れてみて下さい。その際、必ず「ありがとう」をお互いに言い合えると、日本の文化とも言える「利他性」がより気持ちよく育まれるのではないかと思います。

年度後半初月の10月も、理念・目標をしっかりと確認しながら真心を持って保育を行って参ります。